

『東北中央道と「道の駅」の活用による地域活性化社会実験』について

福島県 福島市 建設部 路政課

1. はじめに

東北中央自動車道は、福島県相馬市を起点とし、伊達市・桑折町・福島市・米沢市などを經由して、秋田県横手市で秋田自動車道に連結する総延長約 268km の高規格幹線道路です。

東北中央自動車道の福島市から栗子峠を越えて米沢市に至る区間は国土交通省の直轄高速事業として整備され、2017年11月4日、福島JCT～米沢北IC間が、供用中のトンネルとしては全国で5番目に長い8,972mの栗子トンネルを含め、全線が開通しました。

また、福島市から相馬市に至る区間約45kmは、一般国道115号相馬福島道路として、東日本大震災の復興支援道路に位置づけられ、2017年3月に阿武隈東道路区間が、2018年3月に阿武隈東～阿武隈間及び霊山道路が開通し、一部区間を除き2020年度全線開通を目標に整備が進められています。



▲社会実験実施エリア及び対象道の駅

2. 地域の概要

東北中央自動車道「相馬福島道路」霊山ICに隣接した道の駅「伊達の郷りょうぜん」が2018年3月24日に開業し、東北中央自動車道米沢中央ICに隣接した道の駅「米沢」が4月20日に開業しました。本市においては、福島大笹生IC付近に2022年春の開業を目指し(仮)道の駅「ふくしま」の整備を計画しています。

東北中央自動車道(相馬～福島、福島～米沢間)は無料の高速道路であるためSA・PAなどの整備予定がなく、利用者が安全・安心で快適に利用できない状況にあるほか、全線開通後は沿線地域を通過して

しまう可能性が高まり、地域活力が低下する恐れがあります。

そのため、SA・PAの代替施設として「道の駅」において沿線の観光情報の提供や、高速道路網を活用して沿岸部と内陸部を結ぶ広域周遊ルートの構築、さらに、「道の駅」に外部から誘導し地域内周遊を促進させる取り組みとして、「道の駅」を起終点とする周遊バスやレンタサイクルなどを行い、地域活性化を図るための取り組みを行うため、国土交通省の社会実験に採択していただきました。

また、社会実験の実施主体として「東北中央道地域活性化社会実験協議会」を設立し、実施しました。

3. 東北中央道と「道の駅」の活用による地域活性化社会実験の目的

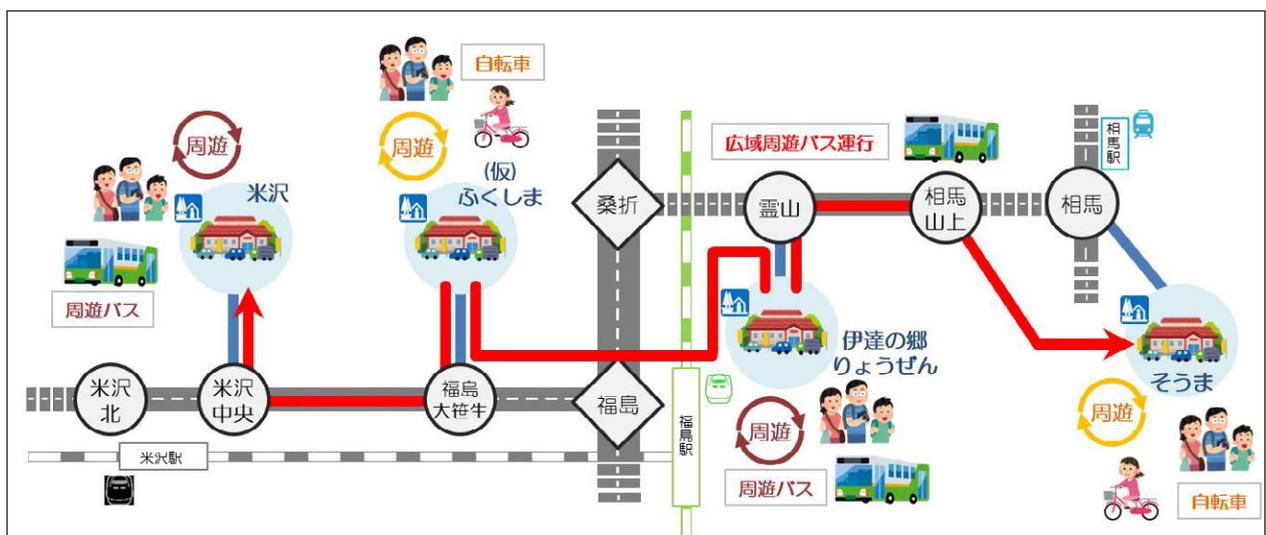
東北中央自動車道沿線の「道の駅」連携と高速道路利活用を通じた広域観光周遊、及び各「道の駅」をゲートウェイとした地域内周遊の促進による地域活性化について検証するとともに対応策の有効性を確認検証し、本格実施に向けて解決すべき問題点を抽出することが目的です。

4. 実験の実施と結果

東北中央自動車道路（相馬～米沢間）沿線にある4箇所の「道の駅」において、3つの広域周遊促進実験および4つの地域内周遊促進実験を実施しました。実験の実施内容については以下のとおりです(表1)。

社会実験実施内容（表1）

項目	実施名称	実施内容	実施場所（実施団体）	実施日
広域周遊促進実験	①広域周遊バスの試行	高速バス運行	相馬～伊達～福島～米沢	10/20・21
	②広域周遊のゲートウェイ機能検証	沿線の広域情報コーナーの設置	道の駅「相馬」/「伊達の郷りょうぜん」 「(仮)ふくしま」/「米沢」	10/13～11/30 ふくしまは10/20・21、11/3・4
	③広域移動の有用性検証	スタンプラリー実施	沿線道の駅を含む地域内29カ所	10/1～11/30
地域内周遊実験	④道の駅を拠点とする自転車活用	レンタサイクル実施 ・ポタリングコースサイクリング ・ロングコースサイクリング	十六沼公園外（福島市・桑折町）	10/20・21、11/3・4 (ロングツーリング10/20)
	⑤道の駅でのサイクリスト受入れ検証	バイクピット設置	道の駅「そうま」（相馬市）	10/13～11/30
	⑥シャトルバス・周遊バス試行	シャトルバス運行	道の駅「米沢」を発着（米沢市）	10/13・14、10/20・21
	⑦	伊達市内周遊バス運行	道の駅「伊達の郷りょうぜん」を発着（伊達市）	10/20・21、11/10・11



▲実施イメージ

アンケート調査の結果からも、参加者のスタンプラリーへの満足度は高く、東北中央自動車道を利用して地域を来訪するきっかけになる等、広域周遊に好影響を与えたことが伺えました。



▲スタンプラリー対象施設マップ



▲スタンプ、スタンプ台設置状況

④ 道の駅を拠点とする自転車活用（地域内周遊実験）

自転車活用による地域内周遊の調査のため、10月20日（土）・21日（日）、11月3日（土）・4日（日）に、（仮）「道の駅 ふくしま」（福島大笹生IC近隣「十六沼公園」内）としてレンタサイクルのブースを設置し、161名の方に利用していただきました。さらに、レンタサイクルの利用者が地域内周遊をし易いように、ポタリングコースのマップを作成し、自転車貸出し時に配布しました。

また、10月20日に、福島市と桑折町を巡る約60kmの上級者向けのロングコースサイクリングを実施し、14名の方に参加していただきました。そのうち8名の方につきましては、広域周遊バスに自転車を乗せる輪行で参加いただき、利用者には概ね好評でありました。

レンタサイクル利用者は一定程度確保でき、サイクルコースに対する評価も概ね高く自動車に代わる周遊手段として可能性は高い一方で、わかりやすいルート案内や魅力的なコース設定が必要不可欠なことがわかりました。



▲レンタサイクル実施状況



▲ロングコースサイクリングの実施状況

⑤ 道の駅でのサイクリスト受入れ検証

「風景街道」等のサイクリングコースの中継基地として、休憩所、エイドステーションを兼ねたバイクピットを「道の駅 そうま」に設置しました。

「道の駅」に立寄った利用者からは、サイクルラックや貸出用のポンプ・工具の設置について、一定の評価をいただくことができました。また、「道の駅」に新たな利用者呼び込むためには、バイクピットの運用だけでなく、自転車利用者の立ち寄りを促す+αのサービス提供が必要です。



▲サイクルラックの実施状況（道の駅そうま）



◀サイクリングマップ（相馬市）

⑥ 周遊バス試行（地域内周遊実験）

「道の駅 米沢」と米沢市内有名観光地の「上杉神社」を結ぶシャトルバスを運行し、10/13（土）・14（日）・20（土）・21（日）の4日間でのべ239人の方に利用いただきました。

米沢でのシャトルバスの満足度は高く、観光消費額も3,000円以上の利用者が多くみられることから経済効果につながる可能性が確認できましたが、一部の利用者からは「運行本数が少ない」「JRの駅も経由してほしい」等の意見がありました。本格実施時には、運行方法の検討が必要です。



▲シャトルバス運行状況（道の駅 米沢）



▲シャトルバス運行状況（上杉神社）

⑦ 周遊バス試行（地域内周遊実験）

「道の駅 伊達の郷りょうぜん」発着の伊達市内の観光資源を巡る周遊バスを運行し、10/20（土）・21（日）、11/10（土）・11（日）の4日間で46人の方に参加いただきました。

また、「伊達市おもてなしなし隊」政宗（まさむね）&愛姫（めぐひめ）の2人も同乗し、参加者との記念撮影にも気軽に応じる等、好評を得ることができました。

総合的な満足度は高く、有効な施策ということが確認できましたが、一部の参加者からは滞在時間や立寄り場所の拡充を求める声があり、本格実施にあたっては検討が必要です。



▲伊達市内周遊バスの運行状況（政宗 & 愛姫乗車）



▲同左（梁川八幡神社）

5. 本格実施に向けた課題

本社会実験の実施により、以下のとおり課題が抽出されました。

- ・アンケート調査を踏まえ、新たに JR 駅立ち寄り等のルート変更
- ・沿線地域のイベント開催時運行による広域周遊バス利用需要把握
- ・既存路線バスを活用した JR 駅、空港等交通結節点～観光拠点～道の駅間のアクセス可能性
- ・スタンプラリーへの参加意欲を高める参加協力施設、参加者特典等の拡充
- ・スタンプラリー運営体制の構築（実施主体設定、コスト確保）
- ・レンタサイクルの確保、管理、エコトラックルートや自転車活用推進計画モデルルート等を活用した多様なサイクルコース提供等も含めた運営体制（地域、自転車をよく知る地元自転車販売店や地元サイクリストと連携等）の構築
- ・地域内周遊バスは地域内交通であり、既存の路線バス、タクシー等の交通資源も考慮しつつ検討
- ・広報の企画立案、ホームページ等の管理も含めた広報体制の一元化

6. 次年度以降の取り組み予定

次年度以降も各自治体等において、継続可能な取り組みについてスケジュールを含め検討し、東北中央自動車道や沿線「道の駅」等の利活用による地域活性化につなげていきたいと考えています。

【広域周遊バス・地域内周遊バス】

- ・沿線地域イベント開催時の運行による広域周遊バス利用需要把握
- ・既存路線バスを活用した JR 駅、空港等交通結節点～観光拠点～道の駅間のアクセス可能性調査及び検討
- ・「道の駅 伊達の郷りょうぜん」が、平成 30 年 12 月より高速バス（会津若松⇄仙台空港）のアクセスポイントとなったことから、インバウンドも含め高速バス利用者呼び込んで地域内を回遊できる仕掛けの検討

【広域周遊促進】

- ・「福島圏域連絡推進協議会」等との連携による、スタンプラリー運営体制の構築

【自転車活用による地域内周遊】

- ・レンタサイクルの管理運営を「(仮) 道の駅 ふくしま」の整備計画にて検討
- ・道の駅等を拠点とするサイクリングコースを活用したイベントの継続実施

【広報】

- ・広報の企画立案、ホームページ等の管理も含めた広報体制の一元化

7. おわりに

今回の社会実験を行うにあたっては、平成 29 年度の実行可能性調査(FS(フィージビリティ・スタディ))の取り組みから実験実施に至るまでご指導ご協力いただきました国土交通省、ならびに NEXCO 東日本の皆様、そして実験に参加・協力いただいた「東北中央道地域活性化社会実験協議会」メンバーの方々ほか多くの関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。